



Ernst Triebaumer

エルンスト・トリーバウマー



トリーバウマー家の初代はルター派の宗教難民として1691年にルストに移住し、代々農業を営んできた。世間に知られるようになったきっかけは1988年、雑誌ヴィナリアVinariaが世界の赤ワインをテーマにした品評会で、エルンスト・トリーバウマーの父が1960年代に植樹し、エルンストが醸造した1986年産ブラウフレンキッシュ「リート・マリエンタル」の優勝だった。このワインは現在オーストリアでは伝説のワインとして語り継がれている。

ルスト周辺は本来貴腐ワインのルスター・アウスブルッフの名産地として知られているが、トリーバウマーは約20haのぶどう畑のうち75%を赤ワイン用品種（50%ブラウフレンキッシュ、残りはカベルネ・ソーヴィニオン、メルロなど）と辛口の白（シャルドネ、ソーヴィニオン・ブラン、ヴェルシュリースリング、グリューナー・ヴェルトリーナー）を栽培。環境に対する意識が高く、土壌を健康に保つ為には労を厭わない。CO2排出量を抑えるためトラクターの使用を出来るだけ避けて、耕耘の回数を減らし、ぶどう畑に羊を放し飼いにし除草と除葉と堆肥を与え、ミツバチを養い、鳥の巣箱を設置し、野菜を育て、豚も飼い、農地全体の調和とバランスを考えて経営している。

ノイジードラー湖に近い畑では甘口の貴腐ワイン用を、ルストの南西の珪岩、粘板岩、片麻岩、結晶片岩に粘土が混じる畑では辛口白用のぶどうを、ルストの北の貝殻石灰質が多く含まれる畑では赤ワイン用品種を栽培。手作業で選び抜いた収穫を、バリック樽を多用して必要なだけ十分な時間をかけて醸造する。現在はエルンストの二人の息子達（ヘルベルト、ゲアハルト）がワイン造りの伝統を継いでいる。

2021	理想的な天候、申し分ない年。白・赤・甘口まで上々の出来栄。
2020	フレッシュ感のある上質な出来栄、凝縮感と熟成能力はやや控えめ。
2019	完熟した果実味、精緻、ブドウ畑の個性がよく表現されて、熟成能力もある。
2018	暖かい春と暑い夏で収穫が早かった。酸度が低く緩めの白、赤は有望。
2017	平年比25%増の豊作。不安定な天候にもかかわらず良質な収穫。
2016	遅霜と雹に見舞われたが、果実はよく熟した。
2015	温暖な気候で、果実はよく熟した。

	○Grüner Veltliner グリューナー・ヴェルトリーナー			備考	2021年産は甘口Lieblich (Alc. 14.4%, 残糖 26.3g/L, 総酸度5.2g/L)。収穫後野生酵母で発酵、残糖26.3g/Lで自然に発酵が止まった。甘味はあきらかに感じられ、素直で親しみやすい味わい。 2016, 2017年産は halbtrocken (オフドライ), 2018年産は trocken (辛口)。
	畑	品種: グリューナー・ヴェルトリーナー 植樹: 1995年頃 土壌: 標高120m、石灰岩、石英、片麻石、粘板岩、粘土などから成る土壌	醸造		

	○Gelber Muskateller - Ried Greiner ゲルバー・ムスカテラー リート・グライナー			備考	リート・グライナーはルストの町の南端から、ノイジードル湖にかけて緩斜面に広がる、歴史的にも古くからある畑。リートは単一畑のこと。
	畑	品種: ゲルバー・ムスカテラー 植樹: 1995年頃 土壌: 石灰岩、石英、片麻石、粘板岩、粘土などから成る土壌	醸造		

	●Rosé ロゼ			備考	特に樹勢の強い畑の早摘みのブドウから造っている。甘みのある味わいだが、伸びやかな酸味がすっきりと洗い流す。
	畑	品種: ピノ・ノワール、ブラウフレンキッシュ、カベルネ・ソーヴィニオン、メルロ 植樹: 2000年頃 位置: 南東向き 土壌: レス土、石灰岩土壌他	醸造		

	●Blaufränkisch - Rusterberg ブラウフレンキッシュ ルスターベルク			備考	最近までRusterberの畑名は、マジックで黒塗されていた。公的審査機関からの指摘で、ルスターベルクの畑名が集合畑（グロースラーゲ）として公認されていないので、使用しないように指導されたため、畑名を黒マジックで塗りつぶして抗議の意思を表明していた。2016年に集合畑名が公認され、黒塗りをやめた。
	畑	品種: ブラウフレンキッシュ100% 植樹: 1985年頃、2000年頃 位置: 標高140~200m、南東向き 土壌: レス土、石英、片麻石などから成る土壌	醸造		

	●Blaifränkisch - Ried Gemärk ブラウフレンキッシュ リート・ゲメルク			備考	サワーチェリー、ジュンパーベリー(西洋ネズ)、スターアニスのアロマ。 さわやかさと、しっかりした果実味を備えている、説得力のある味わい。
	煙	品種：ブラウフレンキッシュ100% 位置：湖にむかってなだらかに傾斜する畑。湖面に近く、背後に森がある。 土壌：石灰を含む粘土質土壌	醸造		
	●Tridendron トリデンドロン			備考	「トリ」Triは三つ、「デンドロン」Dendronはギリシア語で「木」の意味。ルスト村の司祭がこの名前の発案者だそう。メルロベースにブラウフレンキッシュとカベルネ・ソーヴィニオンをブレンドした、三位一体の味わい。
	煙	品種：メルロ主体、ブラウフレンキッシュ、カベルネ・ソーヴィニオン 植樹：2000年頃、1985年頃 土壌：レス土、石英、石灰岩などから成る土壌	醸造		
	●Blaifränkisch - Ried Mariental ブラウフレンキッシュ リート・マリエントール			備考	石灰質を含む痩せた土壌、特別なマイクロクリマと樹齢のとても高い葡萄樹。1976年にトリバウマー家が購入。1988年に1986年産のブラウフレンキッシュが世に出て注目を集めた。
	煙	品種：ブラウフレンキッシュ100% 植樹：1975年頃、1945年頃 土壌：石灰質土壌	醸造		
	●Blaifränkisch - Ried Oberer Wald ブラウフレンキッシュ リート・オーバラー・ヴァルト			備考	オーバラー・ヴァルトは畑の区画名。太古のサンゴ礁や海藻類、ホタテ貝や牡蠣に由来する石灰質を含む泥灰質（Mergel）土壌。保水性が良い。マリエントールの畑との違いは粘土質の割合が高いことと、葡萄の畝が南北方向に延びていること。そのため日照の影響がまったく異なり、常にマリエントールよりもほっそりとして冷涼なスタイルになる。トリバウマー家が昔から所有している、思い入れのある畑。
	煙	品種：ブラウフレンキッシュ 植樹：1975年頃、1945年頃 位置：ブドウの畝は南北方向に延びている。 土壌：石灰質を含む泥灰質土壌で、マリエントールよりも粘土質の割合が多い	醸造		
	●Cabernet Sauvignon Merlot カベルネ・ソーヴィニオン メルロ			備考	フィルターなし - ほのかに樹脂のヒント。お香、セロリ、上質な紅茶、熟したビルベリー、ブラックカラント、完熟したパプリカ（スイートペッパー）。ダークチョコレートのようなかまやかで非常にしっかりしたタンニンは、今後数十年にわたり、熟成ポテンシャルをもたらす。
	煙	品種：カベルネ・ソーヴィニオン60%、メルロ40%	醸造		
	○Ruster Ausbruch ルスター・アウスブルッフ			備考	貴腐ブドウ特有の、濃い蜜、干したアプリコットのような風味。透明感のある酸味が、いつまでも続く。 2015VTはAlc. 11.5%、残糖度251.6g/L、総酸度5.4g/L
	煙	品種：グリューナー・ヴェルトリーナー50%、ヴェルシュリースリング25%、トラミーナー25% 土壌：片麻岩、珪岩	醸造		
	○Beerenauslese ベーレンアウスレーゼ			備考	複雑な香り、マルメロ、カラメリゼしたショウガ、パイナップル、洋ナシのフレイヴァー、 2015VTはAlc. 12.7%、残糖度161.5g/L、総酸度5.0g/L
	煙	品種：グリューナー・ヴェルトリーナー、ヴェルシュリースリング、トラミーナー 土壌：片麻岩、珪岩	醸造		